

# やまぐちっ子学力向上だより

第 7 1 号 H28.1.29  
山口県教育庁義務教育課

本号は、学力向上の4つの重点取組事項の中から、3点目となる「学習環境の整備」について、効果的な取組を紹介します。

## 特集3 学習環境の整備

### 1 子どもが学びに向かう環境づくり

#### ◇ 行きたくなる、本を読みたくなる学校図書館

宇部市では、独自に図書館等支援員を全小・中学校に配置しており、各学校において、教職員と図書館等支援員とが連携し、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図っています。

この取組の一端として、宇部市立厚南小学校と宇部市立西岐波小学校における様々な工夫を紹介します。両校とも、多くの児童が学校図書館に行くことを楽しみにしています。

#### ● 出入り口 出来事や本の紹介をしています。



厚南小



西岐波小

#### ● 新刊コーナー 小物やレイアウトの工夫



厚南小



西岐波小

#### ● 教科書に出てくる本のコーナー 教科書との相違点や、原典があることに気付くことができます。



厚南小



西岐波小



西岐波小

#### ● 教科書に出てくるお話の作者の作品コーナー 教科書の作品と読み比べたり、作者への関心を高めたりすることができます。



厚南小



西岐波小

#### ● 新聞コーナー

小学生新聞は、3日分まで借りることができます。貸出期間は1週間です。



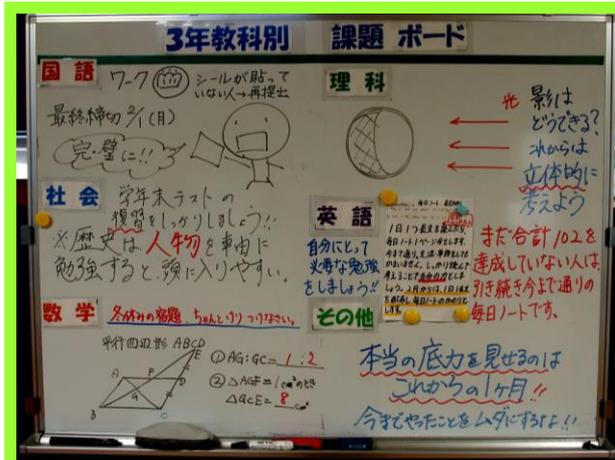
厚南小

#### ◇ 「課題ボード」によるメッセージ

下松市立下松中学校では、ホワイトボードを活用した「課題ボード」を、学年ごとに廊下等に設置しています。

「課題ボード」には、既習事項の要点や確認事項など、各教科担任から生徒へのメッセージが、一目で分かるように工夫して書かれています。

生徒はこれらの内容を確認し、次のテストなどに向けて自主的に復習や準備を進めています。



## 2 子どもの学力向上をめざしたノート指導 ～「ノート検定」～

下松市立久保小学校では、右記の力を育てることをねらって、今年度は6月から全校で毎月1回「ノート検定」を行っています。

### ノート検定で育てたい力

- 1 板書内容を理解しながら板書通りノートに書くことができる力
- 2 復習時の参考や資料として活用できる力
- 3 自分や友達の考え、教師の言葉などを付け加えてノート作りをすることができる力
- 4 自分の学びを自己評価できる力

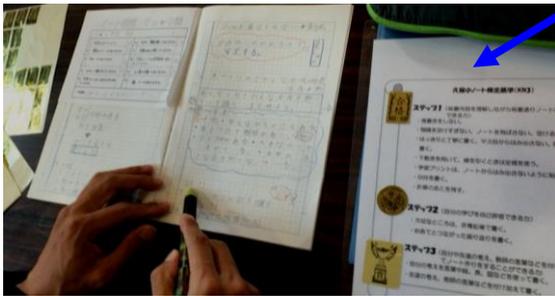


### ◇ 児童の自己評価と教員の評価

初めは教室で実施し、慣れてきたら全校児童が体育館に集まって行います。

児童は、事前に指定された教科の1番自信のあるページを選び、「ノート検定チェック表」(\*別紙参照)で自己評価を行います。

教員は右の「久保小ノート検定基準(KN3)」を目安にチェックし、合格者のノートにはステップ別の合格シールを貼ります。



### 久保小ノート検定基準(KN3)

#### ステップ1

(板書内容を理解しながら板書通りノートに書くことができる力)

- 落書きしない。 • 間隔を空けすぎない。
- はっきりと丁寧に書く。マスからはみ出さない。
- 下敷きを敷いて、線を引くときは定規を使う。
- 学習プリントは、ノートからはみ出さないように貼る。
- 日付を書く。 • 計算のあとを残す。 など

#### ステップ2

(自分の学びを自己評価できる力)

- 大切なところは、赤青鉛筆で書く。
- めあてとつながった振り返りを書く。

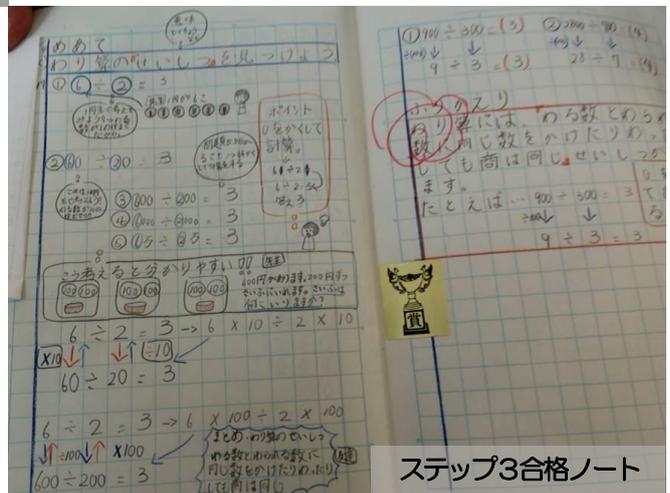
#### ステップ3

(自分や友達の考え、教師の言葉などを付け加えてノート作りをすることができる力)

- 自分の考えを言葉や絵、表、図などを使って書く。
- 友達の考え、教師の言葉などを付け加えて書く。

### ◇ 今月のぴかいちノートの掲示

ノート検定において、各学年で最もよかったノートを「ぴかいちノート」として掲示し、児童の参考となるようにしています。



### ◇ 全校一斉での「ノート検定」のよさ

#### 児童の交流

- 互いのノートを見せ合い、相互評価することで意欲を高めています。
- 低学年児童は上級生のノートを直接見て学び、よき手本を見つけられています。
- 高学年児童は下級生にノートを見せて称賛され、自尊心を高めています。



#### 教員の指導力の向上

- 担任以外の学年のノートチェックをすることで、他学年の子どもの状況が分かり、よさや課題等を情報交換し、指導に生かしています。
- 評価方法を協議し、全教員が共有することで、全校児童に対して、同じ視点で評価、指導を行うことができている。